



7月度バンテアイミエンチャイラジオ局ゲストDJ イェン・ブンチョーンさん(中)
ブンチョーンさんは NGO CWARS でバイク修理の技術を学んでいる。



第7回 (バタンバン:7月21日, バンテアイミエンチャイ7月15日)

第7回放送では CMC 大谷代表もラジオ局へ(バンテアイミエンチャイ放送局)。本番終了後、代表との会話の中で、ゲストDJのブンチョーンさんは「この番組は地雷被害者を励ます素晴らしい番組です。ゲストDJとして協力できたことが嬉しいです。」と語った。

朗読された手紙より1通

愛してやまない妻と娘たち、親族友人へ

私が失った足の義足をつくり、リハビリを受けるために遠く離れたバタンバン州の義足義手リハビリセンターICRCで寝泊りを始めて毎日君たちのことを考えています。元気に暮らしていますか？わたしの故郷、ポングロ村のサラーンじいさん、ヒブばあさん、おからだ大丈夫ですか？ポイペトのターン兄さん、コウムおばさん、そしてチェウンや孫の皆、元気かな？わたしは順調に回復しており、何の心配も要りません。すぐにあえますよ。最後に皆さんの健康と幸運を祈って。

バンテアイミエンチャイ州 ペム・マー

朗読された詩より 1 篇

作者：バタンバン州 コット・クアット

眠れぬ夜は母を思い出す
お腹を痛めて僕を産んでくれた母
小さい頃はよく苦勞をかけた
でもいつでも母は優しくった
母の注意は覚えている
地雷には気をつけなさい
ああ、もっと強く胸に刻んでおけば・・・
不運は突然襲ってきた
私の人生は大きく変わった
足を失って以来
人生はあるようでないに等しかった
波乱の人生 困難の連続
説明するのも難しい
ああ、周りの人たちは皆幸せに見える
なぜなら足があるから
彼らも足を失ったら
この苦しい胸のうちを理解できるだろう
そしてかつての幸せにはじめて気づくだろう
地雷を踏んでしまう前

軍の上官は色々と面倒をみてくれた
そして仕事を称えてくれた
しかし足を失い、用なしとなった
給料の支給も止められた
どれだけ苦勞したことが
それから精神的に強くなった
仕事も死に物狂いで頑張ってきた
全て愛する家族のため
しかし世間の目は冷たい
差別用語も山ほど浴びてきた
でもそんなのどうだっていい
誰も私を見下したりできない
誰よりも苦勞し
誰よりも働いている
雨の日も嵐の日も不平を言わぬ
そして努力は報われた
NGO CVD のスタッフに採用された
ようやく母さんを安心されることができたのだ

インタビュー

CVD (Cambodian Vision in Development)

■活動内容

CVD は障害者に縫製、機械修理、電気技術、はんだ技術を提供している NGO です。施設には寮を完備しており、住居費、食費等全て無料です。また、技術の習得を修了し、卒業をする学生には仕事に関連した職業用具と当面の生活費を提供しています。卒業後も当分の間、学生の仕事が上手くいくように CVD のスタッフがサポートを続けます。CVD は、それぞれの職業訓練コースの開始前に、ふさわしい障害者を探し、職業技術の習得のための入学を勧めます。また、障害者自身で応募することも可能です。しかし、40 人以上の学生は受け入れられません。

■リスナーへのメッセージ

リスナーの皆さんの中にもし CVD で職業訓練を受けたいと思われる障害者の方がおられましたら、いつでも事務所まで連絡してください。しかし、我々は明確な目的意識を有しておりかつ、入学後、切磋琢磨して努力を怠らないと約束できる方にしか入学を許可できませんので、その点はご了承ください。次に、CVD を卒業した学生の皆さん、どうか CVD で習得した技術を最大限に生かし、自立に向けて頑張ってください。

第8回 (バットンバン:7月28日, バンテアイミエンチャイ7月22日)

朗読された手紙より1通

母と親戚のみんなへ

CWARSの寮に住み込んで職業訓練を受け始めてから、もう長い間母と親戚の皆の顔を見ていないなあ。みんな元気でやっていますか？僕はといえば、ここは住み心地もいいしご飯も上手いし、何の不自由もないです。なので僕に関しては何の心配もありません。今僕は全力で勉強に取り組んでいます。将来自立して家族を養っていけるようにと毎日頑張っているのです。あと3ヶ月もすればここを巣立ち、今学んでいる技術を生かして店を開く予定です。本当に楽しみです。最後に、わたくしシブ・ポウンより皆さんの末永い幸せと健康を祈り、終わりにします。愛を込めて...

バンテアイミエンチャイ州 シブ・ポウン

朗読された詩より1篇

題名：母の愛 作者：チャン・チャンレット バンテアイミエンチャイ州

母の愛

それは産声をあげる前からはじまる
大きなお腹
眠るのも歩くのもしんどい
まるで患者と同じ
身二つになれば
母はあちこちにキスを捧げる
この上なく大切に思い
心から愛しむ
そして母の血は美しいミルクになる
我が子が泣けば
胸に抱きかかえ優しくあやす
我が子が熱でも出せば
母はこの上なく心配し
寝ることも忘れて献身する

我が子が迷子になれば
胃を痛めるほど心配して捜し求める
母の恩愛に限りはない
しかしときにはきつくあたる
もちろん悪意からではない
我が子が自立できるようにだ
しつても愛のうち
母の愛は偉大なのだ
私たちは障害者だけれども
めげてはいけない
母の愛を無駄にしてはならない
全力で生きて
母の期待に応えよう
それが母への恩返しになるのだから

インタビュー

ソウン・ソムナンさん（45 歳，地雷被害者）

わたしはバンテアイミエンチャイ州に住むソムナンです。あれは 1991 年のことです。当時わたしは副村長をしていました。ある日、木を切りに森へ入っていたときに地雷の被害にあいました。そして右足を失いました。事故後も副村長を引き続きし、米作も続けました。ちなみに今は村長です。地雷を踏み、右足をなくした自分をはじめて直視したとき、ひどくショックを受けたのを覚えています。自殺も考えていました。でもわたしが死んだら妻や子はどうやって生活していった、と考えると自殺など到底できませんでした。それから頑張ろうと決心しました。地雷被害者の皆さん、自分を蔑む



のはやめてください。私たちは障害者ではあるけれども、生きている限り、汗水たらして頑張らなければいけません。障害なんて考え方次第です。NGO が提供する職業スキルを身につけるなどして、障害以前より生き生きとした人生を送っていきましょう。それと、障害者を差別する人や企業の皆さん、障害者だってやればできます。どうか目をこちらにも向けてください。

ベスナーさん（22 歳，地雷被害者）



僕はパイリンの森で木を刈っているときに時に地雷を踏み、右足を失いました。事故後すぐに EMERGENCY に搬送され、それから約 3 ヶ月入院しました。傷口がふさがったあと、ICRC へ行き、義足を作ってもらい、リハビリに励みました。その後、CWARS で職業技術を学びました。6 ヶ月間の理髪コースです。そういうわけで今は理髪師です。足を失ってすぐは本当に悲しくてたまりませんでした。自殺しようとも思いました。でも今はとっても幸せです。なぜなら仕事があり、家族が幸せに暮らせているからです。この仕事で 1 日だいたい 20000 リエルから 25000 リエル（5 ドル～6 ドル）稼いでいます。ですから家族が金銭面で困っているということはないです。最後に、障害者

の皆さん、どうか希望を失わないで下さい。私たちは障害者ではありますが、それでも自信の将来については他人に依存できません。身体に障害はあっても心に障害はないはずです。私たちは強い意志さえあればどんなことだってできるのです。NGO の助けを借りてどんなスキルだって習得できるのです。

第9回（バタンバン:8月4日, バンテアイミエンチャイ7月29日）

バンテアイミエンチャイの放送局では今回の放送で地雷被害者のゲスト DJ、イエン・ブンチョーンさんの出演が最後となった。初回の出演より毎回緊張されていたが、地雷被害者の抱える思いをありありと解説して下さった。

朗読された手紙より1通

両親へ

父さん、母さん、2人のもとを離れてもう長いことたちますね。僕はCWARSで職業技術を身につけています。調子はどうですか？もし2人が元気なら僕はそれだけで嬉しいです。僕はここでの生活にもなれ、うまくやっています。食べることに困っていません。心配はいりませんよ。でも2人の娘がとても恋しいです。すぐ会いに帰るからね。最後に、私の両親と家族の健康と幸運を祈って。

バタンバン州 ノウブ・ンゲ

朗読された詩より1篇

作者：バンテアイミエンチャイ州 チェム・テアロ

広い世界
孤独な私
わたしは障害者
わたしは死んではいない
でもわたしは生きているのかしら
どうしてこんな運命に
悲しくて 悲しくて
毎日が無意味
もし生まれ変われるものなら
五体満足で一生をすごしたい
嗚呼 私の人生

胸が張り裂けそうなほど苦しみに満ちた人生
悩みが多くて頭がおかしくなりそう
私の人生は漆黒の闇につつまれたまま
誰も見つけてくれない
孤独な私
嗚呼 私の人生
なんて不幸な人生
おお 天よ
私に普通の人生を
私に幸福を

インタビュー

O.E.C (Operations Enfants du Cambodge)

■活動内容

O.E.Cは恵まれない子どもたちを助けています。また、我々は地雷・不発弾被害にあった子どもたちを見つけ出し、ICRCへ連れて行き、義手・義足を提供してもらうようにしています。その後も、その子が義手・義足をうまく使えているか、義手・義足がこわれていないかなどサポートを継続します。O.E.Cは障害のある子が学校にきちんと通うことができるように教材や自転車・車椅子、制服を支援しています。また、我々は例えば父親や母親が障害者である子どもたちの支援も同様に行っています。子どもたちの教育サポートだけでなく、その家庭に野菜や果物の種、水の汲み上げ機の提供もしています。学校教育を終えた子どもたちに対してはバイクや自転車修理、縫製技術等の職業訓練を提供しています。

■リスナーへのメッセージ

障害を持つ皆さん、自分を信じ続けてください。そして希望をすてないで下さい。そしてたとえ障害はあっても、御自分の人生のために、そしてご家族の幸せのために頑張らなければなりません。その気になれば、人間、なんだってできます。障害者をサポートするNGOもたくさんあります。障害のない人でも仕事を見つけようとせず、その日暮らしをしている人も多くいます。五体満足であっても必ずしも幸せで有意義な人生がおくれるとは限らないのです。人生は自分の意思次第です。障害なんて関係ありません。体の障害があなたの人生の障害であるかはあなたの心の持ちようです。どうか、希望を持って活発な人生を送りましょう。